# Y09a　オンライン講演会の参加者層と事後アンケート分析

生田ちさと（宇宙航空研究開発機構、総合研究大学院大学）、平松正顕（国立天文台、総合研究大学院大学）

新型コロナ感染の懸念から、2020 年以降、様々なアウトリーチ・イベントがオンラインで開催されるようになっている。我々も、総合研究大学院大学（総研大）の社会連携事業として、2020 年度と 2021 年度にオンラインで一般向け講演会を開催した。本発表では、一般向けオンライン講演会の例として、プログラムの決定から準備、告知、当日の様子と参加者アンケートの結果、ライブ配信後のオンデマンド映像公開について報告する。特に、参加申込者と実際の参加者へのアンケート結果については詳しく紹介する。

2021 年度開催時の登録者に対するアンケートから、登録者の年齢分布がフラットであることがわかった。具体的には、10 代、20 代と 10 歳毎に区切った年齢区分で、各年代の割合がほぼ同じになっていた。会場で開催する講演会の場合、高齢者と親子が目立つが、それとは異なる年齢分布だった。また、全国から参加希望者が集まるという特徴もあった。若年層や遠方からの参加者も取り込める点はオンライン講演会の特徴と言えそうである。実際の講演会では、質問をテキストでも受け付けたことで、数十件もの質問が寄せられ、一講演あたり十数件の質問に回答した。講演会開催後の参加者アンケートで、「わかりやすさ」を 10 段階評価してもらったところ、いずれの回も 8 以上の高い評価を得ることができた。

一方、運営側としてはキャンセル率の高さが反省点だった。2020 年度開催時のキャンセル率は 2 割から 3 割だったが、2021 年度の講演会ではキャンセル率が 5 割程度あった。キャンセル率を下げることは今後の課題である。